

会 議 録

1 会議名 第10期北九州市男女共同参画審議会 第1回

2 開催日時 令和2年11月24日(火) 14:00~15:50

3 開催場所 市役所15階 15C会議室

4 出席した者の氏名

(1) 審議会委員

来所 大島まな(会長)、石原謙一郎、井手 昇、河野恵美、古賀康彦、
古賀由布子、二郎丸聡夫、手島寿則、屋敷智子

オンライン 湯浅壘道(副会長)、胡眞子、岡本悦子、藤野紗江、渡辺晶子
14名

(2) 事務局 総務局長 高松浩文 他5名

5 会議の内容

- ・会長に大島まな氏、副会長に湯浅壘道氏を選出した。
- ・第4次北九州市男女共同参画基本計画の令和元年度実施状況を報告した。

6 審議会委員からの意見

(1) 第4次北九州市男女共同参画基本計画令和元年度実施状況報告書について (柱Ⅰ あらゆる分野の方針決定過程への女性の参画拡大)

- ・イクボスに関して北九州市の活動が進んでいるというのはよくわかるが、令和元年度でどれだけの進捗があったのか。何社増えたのかが分かりづらい。

(柱Ⅱ 女性が活躍しやすい経済社会の実現)

- ・「イクボス同盟の加盟企業数の拡大」の今後の取組として「加盟インセンティブ」とあるが、具体的にどのようなメリットがあるのか。
- ・ワンストップ窓口は、開始当時は画期的で大変好評であったと聞いている。デジタルトランスフォーメーションということで、相談業務も含めて今後オンライン化を進めていく計画はあるのか。
- ・相談業務に関しては、電話相談やメール相談は行っているのか。色々なニーズがあるので、面会による相談は敷居が高いと思っている方々への選択肢の一つとして、色々な選択肢を検討いただきたい。
- ・簡単な相談であれば、他自治体で導入が始まっているチャットポット等も検討いただきたい。

(柱Ⅲ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進)

- ・市役所における男性職員の育児休業取得率は上がっており成果が見られるが、市内企業は厳しい状況である。6歳未満の子どもを持つ男性の育児家事関連時間について、欧米先進国と比較すると日本はかなり低い数値になっている。
- ・多様な保育の実施箇所数について、例えば休日保育数を増やしてほしいといった要望はあまり上がっていないのか。目標値が同水準ということは、ニーズがそこまでないのか。就職の面接に来る方から「土日は子どもを預けるところが無いので働けない」という声をよく聞くが、そういった声を拾えているのか。
- ・子ども参観日について、市役所の実施が3年に1回となっているのは残念である。参加するかどうかは参加者が決めればよいことであり、市役所は毎年実施してほしい。市内企業の実施が7社から増えていないので、市役所が毎年実施することで増えていくのではないかと。

(柱Ⅳ 男女共同参画意識が浸透した社会の実現)

- ・「男女共同参画社会という言葉の認知度」や「夫が外で働き妻は家庭を守るべき」という指標の数値は出ているが、全国的な数値と比較すると、北九州市の数値が高いのか低いのかかわかれば教えてほしい。
- ・小中学生向け副読本「レッツ」「ひびき愛」は、カラー版で子どもたちが非常に活用しやすく、指導書もあり教師も授業がしやすい。但し授業時間的には道徳でおさえなければいけない内容であるため、年に2回程年間計画に差し込んで授業を行っている状況である。
- ・講座や講演の開催について、オンラインは便利に使えば色々な可能性も広がるツールなので、病気や体の不自由な方も移動無しで参加でき、アクセスの可能性を広げることができるので、検討いただきたい。

(柱Ⅴ 女性に対する暴力の根絶など安心して暮らせる社会の実現)

- ・男女共同参画センター・ムーブの相談件数の中で、「心と生き方の一般相談件数」が非常に多い。複合的に色々なハラスメントが混ざり合っている事案もあると思われる。
- ・北九州市はDVや児童虐待の相談窓口を一本化して受理しており、円滑かつタイムリーに市民を守る対策を取っているのがよくわかる。デートDVに関しても中学・高校・大学等で教育を実施されているが、低年齢化し中学生同士、高校生同士で暴力を振るわれたといった届出が目につくようになっていく。また、同性同士の暴力の届出も増えており、教育や広報で相談や届出がしやすくなったと思われる。
- ・産後うつに対し、きめ細かい対応をされており、継続支援に結び付いた件数が多いと感じる。孤立化を防ぐという意味でも大事だと思われる。

(全体を通じて)

- 数多くの市の施策があることはわかるが、どこまで一般市民に分かってもらっているのか不明である。例えばイクボス同盟に関しても、周囲に知っている人がいるか疑問である。
- 任意団体で防災の取組を行っている。女性に防災について尋ねると生活目線から色々な意見が出るが、男女が混ざった状態で尋ねると女性が全く意見を言わなくなり、町内会長である男性が一言言って終わってしまう現場をよく見かける。防災訓練に関しては、女性が雑用を全て行うことをぼやいている現場によく立ち会うが、この考え方は世代間や仕事といったことよりも、もっと手前の「地域」でも考えていく必要があると強く感じている。
- 報告書の形式について、ポイントを文章でまとめたものがあつた方が分かりやすいと思われる。